

水清きふるさと

平成22年度活動のまとめ (2010年度)



安代町黒滝

岩手県生活問題研究会
(財) 岩手県民共済会

2010年度 活動報告

未曾有の大震災が、東北・関東沿岸を襲ったのは、チリ地震・津波から一年後の2011年3月11日のことでした。

安穏な日常のくらしは奪われ、多くの人々のいのちが失われました。

一瞬にして瓦礫と化したふるさとの街・山河の惨状を目前にして、改めて自然の猛威に震撼させられました。

また、この震災によって引き起こされた福島第一原発の大事故は、人々のいのちにかかわる問題として、世界の国々から注目されています。

一日も早く、安心して住むことのできる環境へと解決することが国としての急務であると考えられます。当研究会は被災地の復興を願いながら、どう係っていくかの検討が急がれます。

昨年から「限りある資源を大切に」という研究の方向性を改めて活動の中心に据え、十分とはいえませんが取り組んできました。日常のくらしを改めてふり返り、原点に立ち返って、活動を積み上げる試みです。

いのちの源である水を洗剤によって汚染していないか、これは、古くて新しい問題です。さらに、原発の大事故によって海水はどうなっていくのかなど気懸りなことが発生することも予想されます。

ゴミの分別については、それぞれの自治体で取り組んでいますが、分別されたゴミがどれだけ資源として再利用されているのか、明らかになってはいません。特にゴミは私たちのくらしの中にある問題として見直すことも大切です。

年間を通じて学習会や見学視察を行ってきました。今、大切なのはこれら活動から派生した事項に対してできるだけ自前の活動を通して解決できる力を持つことです。そのためにはさらなる研修が必要です。

会員相互の学習を深め、知恵を出し合ってさらなる一年を進んでいきます。

私たちにとって今年は、会の創始者であり、研究活動の師と仰ぐ熊谷佳枝さんを失ったことは、大変残念なことでありました。

私たちの活動に対してご支援いただいた関係各位に感謝申し上げます。

2011年 4月

岩手県生活問題研究会

会長 佐藤 まゆみ

岩手大学体験活動プログラム 環境と水

～環境にやさしい天ぷら廃油石鹸作り～

日 時 2010年7月30日(金) 13:30～16:00
場 所 岩手大学農学部共通学生実験室

【プログラムの主旨】

- ・夏休み中の小・中・高校生を対象に、環境と水についての講演・実験・総合討論を通じて、生き物になくてはならない水と環境との関わりについて考えるという主旨で3日間にわたり開催されました。
- ・私たち生活問題研究会は、天ぷら廃油から石けんを作る際に大きなバケツを使い一度に3ℓほどの廃油を使用しますが、このプログラムではペットボトルを利用して300～400mlほどの少量の廃油で石けんを作るとのことなので、参考にしようと参加を希望しました。
- ・農学部の平野先生が学生でも保護者でもない私たちの参加を快諾してくれました。

【講演と実験】

- ・石けん作りの前に「合成洗剤の魚類への影響」という講演を聞きました。岩手県漁業協同組合連合会の前川さんが、海水に流れ込む川などからの生活排水が漁獲量に影響を与えるので、合成洗剤を使わない活動をしていると話されました。
- ・石けん作りに使用するペットボトルは、2ℓの炭酸用で底面が丸いものです。材料を均等に攪はんするためと苛性ソーダがガスを発生させるので安全のためです。
- ・家庭から出た天ぷら廃油と苛性ソーダをペットボトルに入れ、ボトルを振りました。15分～30分ほど振るとだんだん固まってきました。全部固まるまで振り続けなくても放置しておけば固まるとのことでした。

【感想】

- ・一般家庭からは少量の廃油しか出ませんが、それを利用して石けんが手軽に作れることを多くの人に知ってもらうことが、環境と水について関心をもってもらえる一助になると思いました。秋の環境王国展では安全管理上の理由でペットボトル石けんの実演ができませんでしたが、機会があれば広めていきたいと思います。
- ・他にも福祉施設杉生園のバイオディーゼルの自動車の話と展示、国立環境研究所研究員の「身近な科学物質による生物への影響」、岩手大学の「食器用洗剤のミジンコへの影響」、国連上席顧問の「発展途上国の環境問題と子どもたち」などの講演や実験がありました。他の分野の方々と連携していきたいと思いました。

報告 横藤 崇子

洗剤溶液がメダカへ及ぼす影響

3月31日(水) 県民生活センター実験室

	100倍	1000倍	10000倍	成分
キッチン用 液体石けん (石けん)	××× 23分	××× 36分	○○○	脂肪酸カリウム クエン酸
ジョイ (合成洗剤)	××× 15分	××× 21分	××× 1時間34分	界面活性剤 35% (アルキルエーテル 硫酸エステルナトリウム アルキルアミノオキシド他) 安定化剤 粘度調整剤
キッチン用 ヤシノミ洗 剤 (合成洗剤)	××× 25分	××× 58分	○○× 1時間35分 2匹生存	界面活性剤 16% (アルキルエーテル 硫酸エステルナトリウム 脂肪酸アルカノールアミド)
水道水	○○○ 元気に泳ぐ	○○○ 元気に泳ぐ	○○○ 元気に泳ぐ	

※ ×はメダカが死んだこと、○は生存を表しています。

※ 時間はメダカ3匹が死亡した時間です。

【実験の方法】

・洗剤を100倍、1000倍、10000倍にうすめ、メダカ3匹をそれぞれのビーカーに入れ経過を観察しました。

【観察の結果】

- ・水道水の中では酸素を補給しなくても元気に泳いでいました。
(ペットショップで買ったときは翌日までたせるのであれば酸素が必要と言われ、携帯用の酸素を出す石を購入しました。)
- ・洗剤溶液の中では、石けんの水溶液がメダカにとって生きやすいということがわかりました。

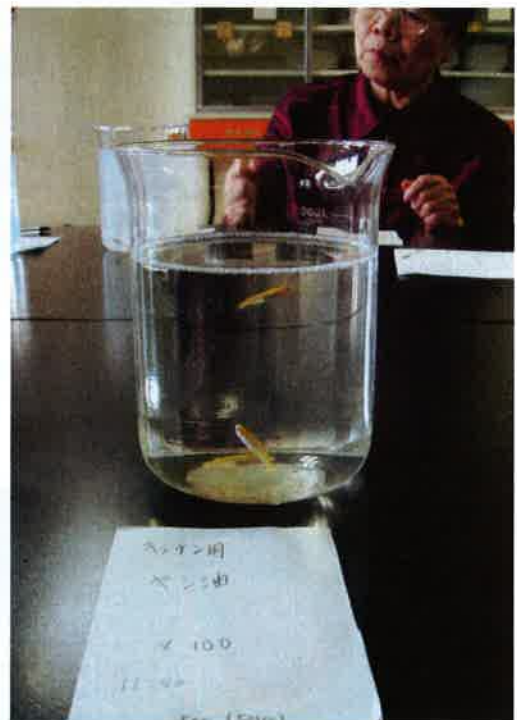
- ・ 1000 倍の溶液の中で石けんより、ヤシノミ洗剤の方が長く生きていたがメダカの固体の大きさや元気さも影響したのではないかと思います。
- ・ 10000 倍に薄めてもヤシノミ洗剤や、ジョイはメダカが生きていくには過酷な影響があることがわかりました。
- ・ 生きているメダカは持ち帰り育てているが今も元気に泳いでいます。

【感想】

- ・ 川の水を汚さないためにはやはり、石けんの使用が望ましいと思われます。

※これを機に洗剤の学習をさらに深めていきたいと思います。

報告 田上みね子



2010 緑のフェスティバル

日 時 2010年5月23日(日) 10:00~15:00
場 所 盛岡市中の橋・中津川河川敷
主 催 みどりを守り育てる岩手県民会議

二年に一度行われる緑のフェスティバルは
みどりと水と食の祭典〈山里の恵み、命輝く〉をテーマに行われました。
当研究会は環境を守ることを内容とした活動の出展をしました。来場の参加者には
実践しているエコの内容を短冊に書いてもらうエコツリーを作りました。
また、食用廃油を使っての手作り石けんの実演を行いました。多くの団体と共に行
うこのような実践は、多くのことを学ぶ場であり交流することでいろいろな課題を
共有できる場として、今後も連携していきたいと考えます。

2010 緑のフェスティバル
みどりと水と食の祭典 **小雨決行**

山里の恵み、いのち輝く

● 樂箱作り・竹細工
● 米・ドン菓子コーナー
● クイズコーナー(樹木、水)
● バター作り体験 ● 中津川の水中観察
● イワナつかみ(子ども無料)

その他いっぱいあります!!

ワッワッドキドキコーナー

スタンプラリーに参加して、ブルーベリーの苗木をプレゼントしよう

午前10時30分より
スタンプラリー用紙
配布開始 定価500枚

とき 2010年5月23日(日) 10時~15時
ところ 盛岡市中ノ橋 中津川河川敷(盛岡市中ノ橋下流)
主催 みどりを守り育てる岩手県民会議

水の日行動

8月1日は水の日です。

今年は7月31日に12時に実施しました。

盛岡水道部の方と一緒にです。

食廃油から作った石鹼200個を用意しました。

通る人々に肴町アーケード前、

川徳前を通る人々に無料配布しました。

手づくり石鹼と、

水道部からのチラシを一緒に入れて

水の大切さを通る人にお話し、

「水を汚さない石鹼を使ってみませんか？」と

呼びかけました。



肴町アーケード前



2010年 岩手県消費者大会

日時:2010年10月27日(水) 10:30~15:00

会場:サンビルホール

テーマ:「私達が安心して暮らせる社会をめざそう！」

午前

1 全体会基調講演 10:30~12:00

「消費税増税はまちがっている～安心して暮らせる国づくりの方法は他にある」

講師:神戸大学教授 二宮 厚美 先生

現代日本の国民生活で解決しなければならない課題として、格差・貧困問題、不況問題、財政赤字問題がある。打開策として富裕層や大企業に増税し、低所得者に回す所得再分配をすべきであると提案した。

- ・ 格差問題の実態として、低所得者の若者が増えている一方で一泊数十万円のスイートルームに宿泊する富裕層がいる事実などを述べた。
- ・ 日本の不況については「労働者の所得水準が落ち込んでいるから内需が盛り上がらない。消費税が増税されると、低所得者の人はますます貧しくなって一層消費が落ち、不況の打開にならない」
- ・ 不況や格差を解決するための方法として、「消費者の購買力を高めればいい」と説明されました。そのために農家への戸別所得補償制度や、子ども手当に代表される所得の再分配を有効なものとしながら「問題はどこから金を持ってくるか。民主党政権は、消費税増税など大衆負担の水平型再分配を志向している。そうではなく、上(富裕層)から吸い上げて、下(低所得者層)に回す垂直型再分配をしなければならない」と強調していました。

これからの日本に問われる税制の原則として

- ① 過剰資金を吸い上げて有効に活用する
- ② 内需不振を打開する
- ③ 福祉と環境中心の資源配分

上記3項目を積極的に実行すべきであると話していました。

2 決議提案

大会感想

垂直型所得再分配(応能負担・税はあるところから取る)という事を学習しました。

消費者にとって収入が減る中で負担ばかり増え、安心して暮らすことは出来ません。特に若者が意欲をもてる社会にして欲しいものです。

報告 細野 孝子

岩手県消費者大会第5分科会（平和）

日 時 2010年10月27日（水）13：10～15：00
場 所 サンビル7階3号会議室

ミニ講演「平和であり続けるために、今すべきことは何か」講演者 高橋ワカ子さん

- ・高橋さんから「一口に平和問題と言っても色々な窓口があるが、私は戦後65年たっても戦後処理は終わっていないとの立場で話します。」と、父が戦死したパプアニューギニアのビアク島での遺骨収集のお話がありました。
- ・ビアク島にはガダルカナル玉砕後の絶対国防拠点として、軍人ではない5000人を含む13000人が送り込まれた。昭和18年12月25日の上陸後間もなく、アメリカ軍の攻撃と40度をこえる気温と飢えや病気のため次々に亡くなり、終戦時はわずか86人生存しているのみだった。
- ・ビアク島は今もお墓状態で、苔がはえた遺骨やヘルメット、野戦病院の跡が残り、中には遺骨が空き缶や廃材といっしょに放置されている所もあるとのこと。
- ・国会議員に収集参加を頼んでも、10日間かかるのでなかなか参加してもらえない。
- ・島にただ遺骨収集のためだけに行っても島民は受け入れてくれないので、国際親善がとても大切だし、私は見てきた者の務めとしてやれる範囲のことをしたい、玉砕ビアク島の語り伝えをしていきたいと締めくくりました。

参加者から

- ・自分も幼いころに父が戦死した。ワカ子さんの活動に刺激を受け活動を始めている。
- ・身内で戦争に行ってきた人は、その体験を語りたがらなかった。もっと聞いておけばよかった。
- ・戦地にいかななくても「戦争」は人を気ちがいにする。銃後の守りの人も急に意地悪になったりする。語り継ぐことは大事で、嫌なものは嫌だと声をあげるべき。

感想

- ・ワカ子さんが小学校に寄付した絵本『Photographs in Mud(2枚の写真)』が展示されました。戦争の話なのにどこかやさしい感じのする絵で、多くの子どもたちに読んでほしいと思いました。
- ・松浦さんの司会で、28名の参加者から体験談や主張が話されました。戦争体験のない参加者も多く、私は戦争を知らない者がどうやって戦争反対と言えるのかと疑問に思っていました。しかし、遺骨収集の話から本当に戦争は終わっていないことがわかったし、戦争体験はなくても私たちは戦争の悲惨さを他の人に語れるし、語る必要があると感じました。

報告 横藤崇子

第49回全国消費者大会

日 時 2010年11月12日～13日（金～土）

一日目 全体会 13:30～16:30 会場 お茶ノ水 全電通ホール

二日目 分科会 10:00～15:00 会場 千代田区麹町 弘済会館

全体会内容 パネルディスカッション コーディネーター 古屋 和雄さん（NHKアナウンサー）

① 報告・提起1

テーマ：多重債務の現状と生活再建支援策の実施

パネリスト：有田 宏美さん（NPO 法人女性自立の会理事長）

実家の借金、多重債務に苦しみ、あまりにも無知だったことに直面し、NPOを立ち上げ、相談業務に関わることになった。

多重債務の現状と生活再建支援策の実施、相談現場からの事例、多重債務に陥らないために、NPO 法人の活動、多重債務者を生まない社会を目指して、真の救済は、自立した生活が送れるように導くことなどを話されました。

② 報告・提起2

テーマ：子どもの貧困の現状と解決に向けた方策の実施

パネリスト：森田 明美さん（東洋大学社会学部教授）

子どもの貧困の現状と解決に向けた方策の実施について、おとなの抱える問題がどのように子どもへとつながっているか、子どもたちの育ちに現れた問題、子どもを育てる市民性と専門性、子どもの貧困は大人の貧困の連鎖、子どもの権利条約、子ども子育て支援の課題は何かなどを話されました

③ 報告・提起3

テーマ：格差・貧困社会を克服するための所得保障制度

パネリスト：駒村 康平さん（慶應義塾大学経済学部教授）

グローバル経済のもとでの社会構造の変化、格差・貧困が子どもに与える影響、非正規労働者の増加が国民年金空洞化の原因、貧困高齢者の増加、少子高齢・人口減少・単身化社会などについて話されました。

感想（葛）

コーディネーターの古屋さんはパネリストの話を的確にまとめ、とても分かりやすい進行で、自分の地域ですべきことが見えてきたように思いました。

感想（松村）

3人のパネリストの話を聞き、暗くなるような話題ばかりでため息が出ました。古屋さんから子育ての経験談を聞きほっとしました。

大都会ばかりでなく、地方においても無縁社会といわれるようになってきました。安心して暮らせるような社会を作っていくためには、個人や家庭の問題としてではなく、社会の問題として考えることが大切ではないかと思いました。

報告 葛 和子
松村 ウメ子

二日目分科会（環境）

テーマ 安心して暮らせる未来のために
～低炭素社会に向けて、生き物・暮らし・私たちにできること～
コーディネーター 藤野純一さん （独）国立環境研究所 地球環境研究センター
温暖化対策評価研究室主任研究員

環境分科会は、前半を「環境井戸端会議」として、4～5人の少人数に分かれて意見交換を行いました。問題解決のためのキーワードを整理し、後半藤野さんの講演がありました。

用紙が配られ

- ①今関心を持ってやっていること、やってきたこと、近い将来やりたいこと
- ②低炭素社会とはどんな社会だと思いますかについて話し合いました。

その結果①については、旅行、習い事、スポーツ、女性団体の活動、仕事、環境問題、ゴミ問題などが発表されました。

②については、大雨とか異常気象が起これ生物が生きにくい社会、昭和30年～40年代の生活スタイルに、便利な生活を見直そう、木を植えよう、旬産旬消、フードマイレージ、電気自動車、太陽光を有効に、などの発言がありました。

感想

これまで、全国消費者大会に数回参加させていただきましたが、分科会ではいつも聞くだけのことが多かったのですが、今回は小グループに別れ話し合ったので、それぞれ発言することができました。

関心を持ってやっていることも、環境に関わることでなくてもいいとのことで、ゲーム感覚で進み、低炭素社会に話題を結びつけるやり方は、参加者を飽きさせない方法だと思いました。

10年位前は、低炭素社会という言葉は使われていなかったのですが、「低炭素社会に向けた12の方策」が紹介され、（別紙）これらの内容を聞き、社会全体で取り組むべきことが大切だと思いました。

全国大会に参加できたことにより、私たち研究会のこれまでの活動が、低炭素社会そのものだと改めて感じ、これからも学習し、行動することが大切だと思いました。

報告 松村 ウメ子

～低炭素社会づくりに向けて、私たちがすべきこと～

Low-Carbon
Society

低炭素社会に向けた 12の方策



これからの
**地球のこと、
環境のこと、**
みんなで考えてみよう。



「2050 日本低炭素社会」シナリオチーム

独立行政法人 国立環境研究所・京都大学・立命館大学・みずほ情報総研株式会社



みんなで止めよう温暖化

チーム・マイナス6%

低炭素社会って なんだろう？

「ホッキョクグマは北極の水が激減し苦しんでいます」「森林が減少してすみかを追われた小鳥たちがいます」地球温暖化は人間だけでなく、動物たちにも深刻なダメージを与えています。そして、この温暖化の大きな要因となっているのがCO₂(二酸化炭素)なのです。ここで紹介する「12の方策」は、2050年までに1990年比でCO₂を70%削減する「2050年 日本低炭素」シナリオを実現する手立てを示したものです。低炭素社会とは、CO₂をはじめとする温室効果ガスの発生が少なく、人にも、動物にも、地球にもやさしい社会です。こうした社会の実現のために、すべきことは何なのか？社会全体で取り組んでいくべき方策を提案します。

12の方策

●民生分野 ●産業分野 ●運輸分野 ●エネルギー転換分野 ●分野横断

- | | | | | | |
|----|-------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------|----|--------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------|
| 01 |  | 民生分野
自然にやさしい快適な住まい | 06 |  | 運輸分野
情報共有でスムーズなモノの流れ |
| 02 |  | 民生分野
「買う」から「賢く借りる」へ | 07 |  | 運輸分野
歩いて暮らせる街づくり |
| 03 |  | 産業分野
地域の恵みを旬にいただく | 08 |  | エネルギー転換分野
CO ₂ をできるだけ出さずに作った電気の供給 |
| 04 |  | 産業分野
森や木に包まれる暮らし | 09 |  | エネルギー転換分野
太陽と風力でエネルギーの地産地消 |
| 05 |  | 産業分野
美しい未来を支える産業・ビジネス | 10 |  | エネルギー転換分野
次世代エネルギー供給 |
| | | | 11 |  | 分野横断
いつでもどこでも「見える化」 |
| | | | 12 |  | 分野横断
自分たちの手で低炭素社会を実現 |



二日目分科会（社会保障制度）

テーマ 考えよう！安心できる社会保障制度とその財源

講演者 立教大学福祉学部教授 柴田 英昭 氏

- * 社会保障制度がほころび、生活に大きな不安が増大した、高齢者の孤独死、子どもの貧困、虐待など安心して暮らせる社会を願い、そのための財源はどこから見つけたらいいのか、また、私たちが果たすべき役割について真剣に話し合いました。
- * 管政権の政治主導にはほど遠い「財界主導」である。技術促進のための研究開発税の強化、法人税の引き下げ（全国民で支える消費税を中心に安定財源の確保）、社会保障・税共通番号制度の早期導入、医療・介護・高齢者生活支援産業創出の促進により、新産業の促進（医療サービス分野の国際化）医療機器、医療機関、医薬品を合わせて有機的に連携させ、医療サービスシステムとして輸出、民間事業者の新たなサービス主体の参入促進（営利企業）
- * 財源は消費税でいいのか？
実質的に大企業負担は縮小する。経済不況下、大企業の内部留保は 2009 年度は 2008 年度に比べて 4.7%増である。

報告 1 子育て世代の今・・・保育現場から見えること

全国保育団体連絡会 上野 さと子 氏

保育ホットラインの取り組みと結果について

- * 育児休業が終了するが保育所に入れない
- * 就業しているが認可保育所に入れない
- * 派遣期間が切れるなど一時的に未就業のため入所できない
- * 自営や在宅勤務のため、家族の介護や養育者の療養などで入所できない。絶対的に足りない保育所
- * 保育所は働く人を助けるための場所であるはずなのに、これでは働くことができない
- * 保育政策は福祉でなく経済対策の一環として、子どもには質の良い保育を受ける権利がある。子どもに人権をもっと正しく受け止めるべきである。

報告 2 「無縁社会」の深まりのなか、高齢者のいのちとくらしはいま・・・地域医療の現場から見えること

東京西部保健生活協同組合 吉岡 尚志 氏

- * 無縁社会 無縁死の実態報告
老老介護があたりまえ、保険料が払えない、認知症者への気配り、目配りがなくなった。年金の不正受給と高齢者の行方不明、家族間の愛情の希薄

* 杉並区の高齢者の実態報告 なぜこうなったのか

孤独死は構造的に生まれ再生産されている、日本型福祉社会といいながら、大企業は責任をなげだし、新自由主義政策のもと、公費の出し惜しみ、社会保障費の削減をおこなった。

都生協連、地域生協、医療福祉生協で共同の取り組みを始めた（安心のネットワーク、見守りネットワーク、溜まり場づくり）

* 医療介護の現状

入院施設、入院病床がきわめて少ない。介護認定の基準を軽く見直すように制度化しているのではないのか？と疑ってしまう、人間関係や健康状態、日常生活、周囲からの援助、近隣との付き合い状態などほとんど考慮しない介護保険以外のサービスはないのか

感想

全体会でも話し合われましたが、一つの団体での取り組みには限りがあり、現状を打ち破り前に進むには、全国に消費者が一体となり進むことであり、生活問題研究会としても、何にどのようにかかわり、取り組んでいくのか、具体的に考えなければならないと思いました。

（報告 葛 和子）

いわて環境王国展

日時 2010年11月13(土)14(日)
 場所 アイーナ
 主催 いわて環境王国展実行委員会

今年もいわて環境王国展が開催されました。内容はメインイベントとして各企業が環境問題に取り組んでいる内容をPRすること。その他として有名タレントが環境に関する講話・ライブなどで市民に環境について発信したこと。エコクイズラリーに参加することで環境への関心を高め実践してもらうことを目的として開催されました。

出展企業は4階フロアに50社で各ブースではクイズを出して回答者には粗品をあげるなどして集客につとめていました。私たちのような消費者団体は6階フロアにあり2団体のみでした。

私たちが展示した内容は「飲料水に関するアンケート結果」と「廃油を使ったリサイクル石けんの作り方」と手作り石けんの提供をしました。

各フロアではエコクイズラリーが設置されており、入場者の中にはそれを目当てにクイズを終えると足早に去っていく人も一部見受けられました。しかし併設イベントでは、エコドライブコンテストや岩手型住宅フォーラムの省エネ住宅についてなど多彩にわたり開催され、自分の生活に実践できることはないかと思いをめぐらしていました。

つなげよう!エコの輪!

2010年11月
13(土)14(日)
 9:30~17:00 9:30~16:00

入場無料

aiina アイーナ
 いわて県民情報交流センター
 アイーナ
 盛岡市盛岡駅前1丁目1号

13(土)
 俳優・気象予報士
石原良純氏 講演会
 「空を見よう」

14(日)
 たらりら
 ライブもあるよ!

来場者プレゼント
いわてのわかめ
 各日先着500名様
 AM9:30~4階・アイーナスタジオ

ecoバッグ
 各日先着400名様
 AM9:30~5階・キャラリアーアイーナ

eco Q エコクイズラリー
 素敵な景品が抽選で当たります!!
 レッパチャレンジ!!
 ※解答用紙は、ウラ面まで書くください

アンケートにお答えの方
 先着300名様に
「eco(エコ)バッグ」プレゼント!
 グラブルチャンス!!
 抽選で
「エコ」おもてんグッズ
 が当たる!

アイーナへはぜひ、
 公共交通機関でおいでください。

主催/いわて環境王国展実行委員会

感想

私たちの開催場所が6階でちょっと目立たない場所であしたが、来場者の中には熱心に見てくれる人もいて当研究会としては参加した意義があったと思いました。その中の意見として「飲み水はペット入りの水が一番という考えが広がってきていますが、まず第一は水を汚さない暮らし方をすることが大切です。この図表を見てそう思いました」という大学生や「廃油石けんは私も使っています。手にも優しくそして汚れも落ちとでもいいです。活動を続けてください。」などうれしい意見をのべる参加者もいました。また、ある男性は「大変良い調査ですね。私は海外を巡っていますが日本のトイレットペーパーは真白に漂白して水に負担をかけて作っています。先進国と言われる西欧でも結構漂白しないトイレットペーパーを使っています。今後こういう面からも水を考えてみることも面白いと思う」と意見を述べる人もいました。また、各企業の出展内容をじっくり見ると、それなりに分からないことや考えが間違っていたことなども気づき参考になることがありました。

環境問題は数十年まえから叫ばれていますが、実践となると便利さが優先されなかなか難しい面があります。でもペットボトルや過剰包装など不要な利便性は極力さけるように自覚しなければならないと思います。これからも研究会として身近な環境問題に取り組みもっと多くの市民が参加できるようにしたいものです。

報告 広野 カツ子

ひとりでエコから、みんなでエコへ



平成22年度「いわて女性のつどい」に参加して

日 時 平成23年2月4日(金) 10:30~14:30
場 所 盛岡市民文化ホール(マリオス)
テーマ 国際交流からひろがる、すべての男女が認めあう社会に

講 演 「ネパールの女性から学ぶ—メガネボランティアから見えてくるもの—」
講 師 (株)メガネの松田 代表取締役社長 松田 陽二 さん

松田さんは旅行好きが高じて、初めてネパールを訪れた時に出会った青年の優しさと、その後何度か訪れるうちに感じた農村部の貧困をみて、自分の職業を活かして何かできることがあるのではないかと思い、ボランティアをすることになったそうです。1998年から毎年、ネパールの無医村地域において視力検査等を行い、メガネを提供するとともに、村の小学校に学校保健薬を、小学生に鉛筆を提供するボランティア活動を行っているそうです。

またネパールでは教育を受けたことのない女性が多く、その人たちにたいして字の読み書き、算数、裁縫などの指導をおこなう私立の施設を訪問した時の様子を話されました。「自分の字が書けるようになった。」と喜び、笑顔で話してくれた女性の話をきくと、男女分け隔てなく教育を受けることができるという点で日本は恵まれていると感じました。

当日は参加者からもたくさんの鉛筆の寄付があり、松田さんもとても喜んでおりました。今年の秋にネパールの小学生に届けてくださるそうです。



パネルディスカッション

テーマ 「国際交流・・・わたしたちの実践から」

【コーディネーター】 岩手県男女共同参画センター長 野崎 智恵子 さん

【パネラー】 国際理解は郷土芸能から

岩手県民になった人…千葉 ローズマリー・アン 千葉 敏明 夫妻
技術指導と寄り合い塾で現地に溶けこむ

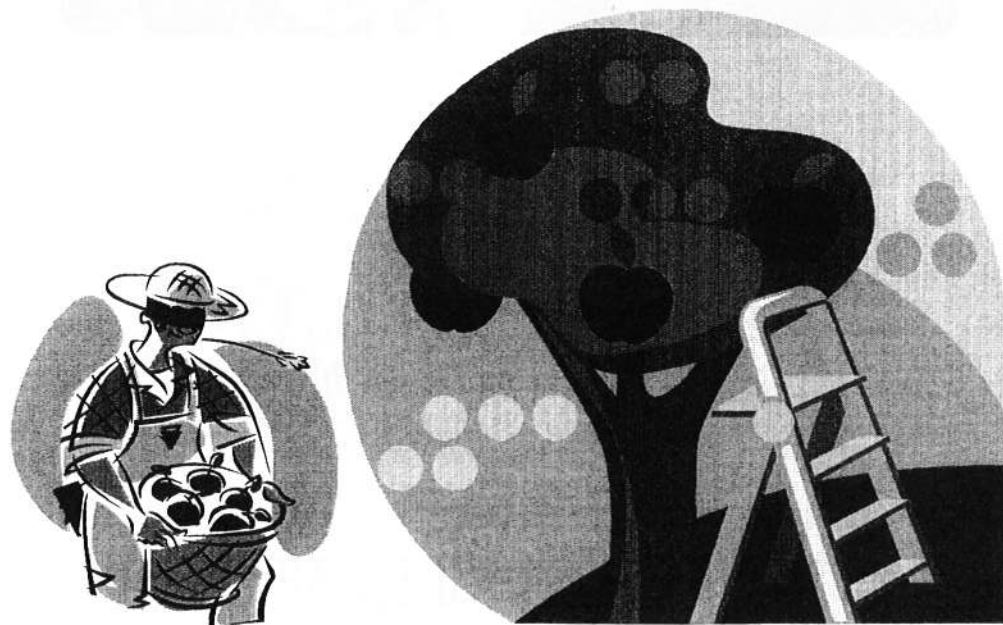
アルゼンチンで暮らした人…小山田 博 小山田 フミ 夫妻

国際結婚をしたローズマリー・アンさんが地域になじむきっかけとなったのは、平泉の郷土芸能である達谷窟毘沙門神楽保存会に入会したことが大きかったということを中心に、お話しするローズマリーさんを、時折夫・敏明さんがフォローしながら和やかにすすめられました。初めはお子さんたちに神楽をという気持ちが強かったそうですが、自分も学びはじめたらとりこになってしまったようでした。そういう姿をとおして地域の方々も感じるものがあつたのだと思いました。やはり国際結婚であってもそうでなくても、地域のことを知り親しむことは大切なことだと思いました。

小山田博・フミさん夫妻は平成11年から2年間、シニアボランティアとしてアルゼンチンの日系農場で果樹栽培指導を行ってきました。長年思い続けた外国でリンゴ栽培を指導したいという願いがかなつたのことだったそうです。その際フミさんも一緒に行き、現地で女性を対象に寄り合い塾を開いて現地に溶け込む一助になったそうです。

この二組のご夫婦のお話をきいて、人と人とのつながりを大切にしようとする気持ちや、夫婦でお互い尊重し支え助け合う気持ちが国や人種の壁を越えて通じ合った結果、お互い受け入れられ、その後に発展していったのだと思いました。

報告 川村 正子



故熊谷佳枝さんを しのぶ会



と き 2010年10月6日
と ころ 岩手労働福祉会館

岩手県生活問題研究会
財団法人 岩手県民共済会

故熊谷佳枝さんのあゆみ

- 1969年（昭和44） 県域の婦人生協設立
1974年（昭和49） 岩手県消費者問題研究会立ち上げ
1976年（昭和51） 地域団体としては、はじめての消費者教室を設置



- 県消費生活課に単位価格表示制度の要望
地域食品認証制度の取組実施 「ミニJAS」
1977年（昭和52） 夏休み母と子の消費者教室（食品の着色料）
内容をかえて、数回取り組む
合成洗剤による皮膚トラブルの声があり、学習に取り組む
1978年（昭和53） 県消費者生活展に出品（欠陥商品、食品添加物）
食品、ジュース類の糖度調べ（人体への影響）
きれいな水といのちを守る岩手県連絡会発足準備会参画
1979年（昭和54） きれいな水といのちを守る岩手県連絡会発足 副会長就任
河川水調べに取り組む（メチレンブルー法）による
界面活性剤の濃度調べ



- 1980年（昭和55） 岩手の婦人 執筆（昭和50年代の女性史）のまとめ
1981年（昭和56） 県内外の多くの団体へ講師として招へいされる

- 1986年（昭和61） 食油の酸化測定法、塩分の測定法、プリン石鹼の作り方
 廃油による固形石鹼、純プリン石鹼作りにとりくみ現在に至る
 国産米と外米との食味テスト学習



- 1990年（平成2） 岩手県では初めての消費者保護功労賞を経済企画庁より受賞



- 1991年（平成3） チェルノブイリ原子炉爆発現場写真展開催
 （消費者の“みたいから、みたい”の関心に答えて）

- 1992年（平成4） 岩手町の農家と特別栽培米の契約をする
 （銘柄米を有機栽培しても多用途米にしか認められないことへの疑問）
 岩手県民運動推進協議会より表彰
 資源節約と再利用の普及と住みよい社会づくりに貢献

- 1994年（平成6） カリフォルニア米の試食
 10年前の外国米との対比。今後の日本農業を変えるステップとする。

- 1998年（平成10） 「生きて、糧いて」～変動期を生き抜いた女たちの記録～ 出版・祝賀会



偉大なる創始者熊谷佳枝さんをしのぶ

2010年8月11日当研究会の創始者熊谷佳枝さんが逝去されました。熊谷さんは多くの分野で研究者として、また実践者として知られている人です。それだけに、私たちはもとより、熊谷さんを知る人たちにとっても惜別の情浅からぬものがあります。10月6日は熊谷さんの知人、友人が多数集まり、しのぶ会を行いました。花々に囲まれた遺影に、私たちは新たな研究・活動と、会の継続を確認し合いました。

岩手日報
8月27日

くらし

食&いのち

女性史を切り開く

本県の女性史研究や深め、90年に経済企画環境・生活問題などの庁(当時)消費者保護分野で、草分け的な存功労賞を受賞した。在だった盛岡市山王町 熊谷さんの女性史研究の熊谷佳枝さんが11 究の中で、最も大きな日、96歳で亡くなった。業績の一つに挙げられ熊谷さんの業績や人柄るのは「岩手の婦人」をしのぶ声が相次いで (81年刊)の執筆だ。同書は本県女性の昭和の軌跡と白書を兼ねたもので、75年の国際婦人年世界会議の流れをくむ女性施策の一環と (大正3)年中国大連市生まれ。27(昭和2)年に父の満鉄退社とともに盛岡に帰り、31(同)内IIが企画した。6)年に盛岡高等女学校(現盛岡二高)を卒業。48、64年に岩手日(大)やく認められた際の報社に勤務し、「東北文庫」(こともしんぶん)の編集や、生活家庭欄記者として女性問題にかかわった。退社後は女性史や消費生活、環境分野の研究を「限られた条件下で

熊谷さんは1914 (大正3)年中国大連市生まれ。27(昭和2)年に父の満鉄退社とともに盛岡に帰り、31(同)内IIが企画した。6)年に盛岡高等女学校(現盛岡二高)を卒業。48、64年に岩手日(大)やく認められた際の報社に勤務し、「東北文庫」(こともしんぶん)の編集や、生活家庭欄記者として女性問題にかかわった。退社後は女性史や消費生活、環境分野の研究を「限られた条件下で

故熊谷佳枝さん(研究)をしのぶ



「婦人運動が命懸けだった時代、信念を貫いた女性たちに勇気もらえる」と語っていた故・熊谷佳枝さん(1998年、盛岡市山王町の自宅)

「岩手の婦人」を執筆 生き方、生活問題に着目

いいものをと誠実に取組む熊谷さんに助けられた。国連婦人の10年という「時」と、熊谷さんという「人」を得て初めて作ること「できた本」と感謝する。女性史の分野ではこのほか、明治から昭和期に活躍した本県ゆかりの女性74人を紹介する「生きて、輝いて」(変動期を生きぬいた女たちの記録) (杜陵高速印刷)を98年に出版。以来、職員も分らないという奇贈者が「多弁ではなかったが、

佐藤さんは教員時代、児童らと県内のゴルフ場近くで背骨の曲がったドジョウを発見したの機に入会。一出して出してもまだ残る知恵袋のような人だった。人から借りたデータではなく、自分の手足を動かして、目で見て考える大切さを教わった。熊谷さんは足の骨折で1月に入院するまで、同会の例会に出席していたという。「49日を過ぎたら思い出さる会を開きたい」と静かに語る。

平成22年度活動報告 (2010年度)

4月

- 7日(水) 例会 共済会会議室
- 14日(水) 消団連総会 岩手県教育会館第一会議室
- 15日(木) 「水清き」まとめ作業 共済会会議室、
「貸金業法改正」講演会 おでって
- 16日(金) 温暖化防止いわて県民会議 県民生活センター
- 18日(日) 「これでいいのか、世界一高い教育費を考える」講演会
岩手県公会堂21号会議室
- 28日(水) いわて環境王国実行委員会 県庁議会棟第三会議室
- 30日(金) 「水清き」最終検討 共済会会議室

5月

- 12日(水) 例会 共済会会議室
- 14日(金) 岩手消費者行政推進ネットワーク設立記念講演会
県民会館中ホール
- 21日(金) みどりのフェスティバル準備
- 23日(日) みどりのフェスティバル 中津川河川敷
- 25日(火) 消団連幹事会 県民生活センター
- 27日(木) 岩手県福祉協議会評議委員会 エスポワール

6月

- 9日(水) 例会 共済会会議室
- 21日(月) 「各政党の政策を聞く会」おでって
- 25日(金) 消団連常任幹事会、岩手県消費者大会実行委員会
- 26日(土) 男女共同参画フェスティバル

7月

- 7日(水) 例会 共済会会議室
- 14日(水) 地産地消いわて協同組合協議会「設立6周年記念講演会」
サンビル7階大ホール
- 17日(土) 農民大学学習会「なぜ、何、どうする、口蹄疫」国保会館
- 27日(火) 消団連幹事会、消費者大会実行委員会
サンビル7階会議室
- 28日(水) 水の日行動 石けん準備
- 30日(金) 岩手大学体験活動プログラム『環境と水』

8月

- 2日(月) 水の日行動 中三前
- 5日(木) 環境王国実行委員会 エスポワールいわて 3階特別ホール
- 10日(火) 平和講演会『森永卓郎平和を語る』サンビル7階大ホール
- 18日(水) 例会 共済会会議室
- 23日(月) 食の安全に関する意見交換会(口蹄疫について) 農政事務所大会議室
- 24日(火) 消団連幹事会、消費者大会実行委員会 県民生活センター
- 31日(火) 紫波町エコプロジェクト学習会 紫波町役場会議室

9月

- 7日(火) 消費者行政推進ネットワーク学習・講演会 県民生活センター
- 8日(水) 例会 共済会会議室
- 17日(金) 熊谷さんをしのぶ会準備
- 22日(水) 熊谷さんをしのぶ会準備
- 28日(火) 消団連幹事会、消費者大会実行委員会 岩教組会議室

10月

- 1日(金) 熊谷さんをしのぶ会準備
東北地方液化ガス懇談会 仙台
- 5日(火) 熊谷さんをしのぶ会最終打ち合わせ
- 6日(水) 熊谷佳枝さんをしのぶ会 労働福祉会館
- 7日(木) 日弁連人権擁護大会 アイーナ
- 12日(火) 例会 共済会会議室
- 13日(水) 消団連幹事会、消費者大会実行委員会
- 25日(月) 環境セミナー アイーナ
- 27日(水) 岩手県消費者大会 サンビル

11月

- 2日(火) 消費者大会実行委員会ふりかえり
- 4日(木) 環境王国展準備 共済会会議室
- 10日(水) 例会 共済会会議室
- 12日(金) 環境王国展搬入、展示準備
全国消費者大会
- 13日(土) 全国消費者大会
環境王国展 アイーナ
- 14日(日) 環境王国展 アイーナ
- 16日(火) 食品の安全とリスクセミナー 農政事務所会議室

18日(木) HACCP 研修 北館製麺

12月

2日(木)産直運動推進大会 サンビル

7日(火) 自殺防止セミナー アイーナホール

8日(水) 例会 共済会会議室

10日(金) TPP 学習会 水産会館大会議室

15日(水) 消団連幹事会 利エ門

1月

12日(水) 東北消費者グループフォーラム 仙台ガーデンパレス

14日(金) 例会&新年会 共済会会議室

25日(火) 消団連幹事会、公正取引委員会東北事務所学習会 岩教組会議室

2月

3日(木) 消費税反対学習会 水産会館大会議室

4日(金) いわて女性をつどい 盛岡市民文化ホール 大ホール
食に関する学習会 盛岡合同庁舎1号館、3階会議室

5日(土) 介護を考えるシンポジウム 教育会館大会議室

8日(火) 環境王国展実行委員会 合同庁舎8階会議室

9日(水) 例会 共済会会議室

16日(水) 温暖化防止いわて県民会議 水産会館大会議室

22日(火) 消団連幹事会 県民生活センター

3月

5日(土) TPP 学習会 講師：内橋克人さん

9日(水) 例会 共済会会議室

31日(水) 合成洗剤の生体への影響 県民生活センター

4月

12日(火) 消団連事務局会議 学校生協

15日(金) 例会 共済会会議室

27日(水) 消団連総会 教育会館第4会議室

28日(木) 活動のまとめ 共済会会議室

5月

10日(火) 大震災被災地への支援弁当づくり

- 11日(水)例会 共済会会議室
20日(金)岩手県福祉協議会評議委員会 ふれあいランド岩手 研修室
25日(水)消団連幹事会

☆ 各種モニター等

- きれいな水といのちを守る連絡会会長 葛和子
公正取引委員会・独占禁止政策協力委員
(消団連幹事として)横藤崇子
(財)福祉基金評議会委員 (消団連副会長として)田上みね子
温暖化防止いわて県民会議委員(")田上みね子
いわて環境王国展実行委員会委員(")田上みね子

* * * * *

☆ 廃油石けん作り

- 佐藤 3,30
松村 20,10
田上 16,50
細野 9,90

* * * * *

☆ 会員

- ・佐藤まゆみ ・熊谷佳枝 ・杉山温子 ・葛和子 ・広野カツ子
・松村ウメ子 ・田上みね子 ・細野孝子 ・吉田静子 ・横藤崇子
・小野寺京子 ・桑畑とわ子 ・川村正子

